

元気の出る情報・交流誌

手をつなぐ

特 集

きょうだい

～それぞれに想いをよせて～

今月の問題 | いわゆる「利用者紹介サービス」の課題

ひびき | 山本シュウ (ラジオDJ、教育家)

2025

7月

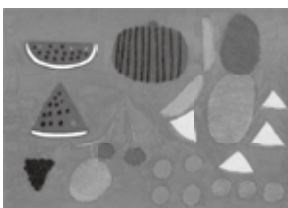
No.833



CONTENTS

手をつなぐ

2025.7 [No.833]



表紙絵「なつのふる一つ」

■高梅和貴(たかだる・かずき)

31歳

■高知県吾川郡

NPO法人ら・ら会

作業所ら・ら

■作者からのひとこと

お中元のカタログを題材に、夏のフルーツを描きました。見どころは表現方法と、着色に使用している色鉛筆の使い方。隙間なく色濃く塗られ、違う質感にさえ感じるほどです。

一つ屋根の下でくらすせんせいと「わたしの自立」を考える [第10回]

気持ちとの距離 Aju・永浜明子

02 わたしたちも言いたい

どんなに障害があっても 西 綾乃

05 知りたい!あなたの見ている・感じている世界 [第16回]

脱力は難しい 福田香苗

07

特集

きょうだい

～それぞれに想いをよせて～

08 きょうだいの物語【学齢期編】

きょうだいの想いに寄り添うために 学齢期の心の揺れと支え 有馬桃子

10 きょうだいの物語【青年期編】

きょうだい児のおしゃべり会で語り合う私たちの思い 古家好恵

12 きょうだいの物語【成人編】

きょうだいと歩む人生結婚、そして親なき後への思い 太田信介

今だからこそ、家族への想い

14 「いろいろな人がいて当たり前」姉と僕、そして役者への道 池戸慎之助

16 長男へ、心からの「ありがとう」とともに歩んだ日々に寄せて 鈴木亜紀子

18 兄弟姉妹自慢!

きょうだいで良かった! みなさんの声を集めました

22 きょうだい児(者)の悩みに答えます!

きょうだい児として描いた未来 藤木和子

26 きょうだいを生きる、私を生きる 打浪文子

29 今月のオススメ

30 ひびき

合言葉は「We are シンセキ!」 山本シュウ (レモンさん)

33 こつこつ進めば大丈夫。～思いが届くコミュニケーション～ [第1回]

どんなに障害が重くてもみんな意思がある 認定NPO法人こつこつ

34 今月の問題

いわゆる「利用者紹介サービス」の課題

38 けんりって何?

啓発キャラバン隊研修会報告 立原麻里子

40 くらしを支える福祉の制度 [第53回]

意思決定支援について その6 又村あおい

42 中央の動き

「障害者支援施設における支援者のための地域移行等の意向確認マニュアル」公表 (その1)

45 ニュースのじかん

はたらくよるこびが 社会の未来を彩る うちの○○自慢! [第2回]

地域とつながる仕事。「ITSUMO」の挑戦 ITSUMO

どんなに障害があっても

石川県
西綾乃

どんなに障害があっても、自分のストーリーを描きたい。

わたしは、小説家になりたいと思っている。ひとりぼっちでも。

しかし、わたしは若いころ、望んでないのに、他の人から

「かわいいからアイドルになれるよ」と言われたことがある。

嫌だった。

わたしにアイドルになることを求めて、

わたしが言われたとおり、アイドルにならないと、



否定^{ひてい}してくる人^{ひと}たちも、とても多^{おほ}かった。

人^{ひと}に言^いつても、「自^じ慢^{まん}」や「嫌^{いや}味^み」と言^いわれて、傷^{きず}付^ついた。

みんな、わたしの見^みた目^めしか見^みていない。

だれも、わたしの中^{なか}身^みを見^みてくれない。

だれも、わたしの文^{ぶん}章^{しょう}を、読^よんでくれない。

わたしのメッセージを、

「読^よまないし迷^{めい}惑^{わく}」と言^いう人^{ひと}たちも、少^{すく}なくない。つらい。

それでも、わたしは、わたしだけでも、

絶^{ぜつ}対^{たい}に自^じ分^{ぶん}の文^{ぶん}章^{しょう}を書^かくことを、あきらめたくない。



「わたしたちも言^いいたい」ではみなさまからのお便^{たよ}りを募^ぼ集^{しゅう}しています（宛^{あて}先^{さき}は48ページ）。
生^{せい}活^{かつ}のこと、仕^し事^{ごと}のこと、暮^くら^らしのことなどふだん感^{かん}じていることを書^かいてお送^{おく}りください。



障害のある兄弟姉妹とともに育つ中で、
喜びや悩み、戸惑い、そして成長を重ねてきた「きょうだい」たち。
きょうだい児・きょうだい者のさまざまな想いや体験に耳を傾けながら、
それぞれの立場からの声を通して、家族のかたちや支援のあり方を見つめます。
きょうだい自身の言葉はもちろん、親や支援者のまなざし、当事者との関係性に
焦点を当て、多様な視点から「きょうだい」の今とこれからを考えます。

きょうだいの想いに寄り添うために

学齢期の心の揺れと支え

きょうだい児と家族の応援団

にじいろもびーる 有馬桃子

「妹を守る」という使命感と鎧よろい

「妹は大人になったら誰と住むのだろう？」知的障害のある妹と二人姉妹で育った私は、小学校高学年のころにふとそんな疑問を抱きました。そして思いついた答えは「私かな？」というものでした。このときの私は、自分の結婚や就職などには全く考えが及んでおらず、漠然とそう思っただけに過ぎません。ですが、この思いは成長とともに義務感や責任感に上乗せされて、進路など人生の選択にも影響を与えることとなりました。

もうひとつ思い出されるのは、妹を守ろうとする強い意志です。妹と同じ小学校に通っていた私は、「妹を守らなければ」という使命感を常にもっていました。自分自身は弱虫なのに、妹のことになる

と不思議と強くなれるように感じていたのです。後に、ある大人のきょうだい児が「外では兄弟姉妹を守るために鎧を着ていた」と語っていたのを聞いたとき、驚きとともに深く共感したものです。この「鎧を着る」という表現には、本質をついた意味があると感じます。私たちは、まわりの人々が障害のある兄弟姉妹（以下、兄弟姉妹と表記）に向ける視線に恐れを抱き、自分自身も傷つけないように何かで守られたいと願っていたのかもしれないかもしれません。実際、小学生のうちからまわりの人との意識の違いを感じているきょうだいも多く、「兄弟姉妹のことをわかってほしい」「障害があっても同じ人間だよと伝えたい」と切実な願いをもつ子どもたちの姿に触れることもありました。

学齢期に抱える多様な感情

学齢期のきょうだいが抱く兄弟姉妹への思いは様々です。「大好き」「かわいい」「一緒に遊べてうれしい」といった仲良しな関係から生じる気持ちもあれば、「なんでそんなことをするのか？」という疑問や怒り、「いつも褒められてずるいな」という嫉妬、「じろじろまわりの人に見られて恥ずかしいな」という気持ちを感じることもあります。さらには、そのような多様な気持ちが入り交じる自分に罪悪感を覚えることもあります。

「好きなテレビを観ているとお姉ちゃんが勝手に変えちゃって困るんだ」「お父さんお母さんと話したいけれど弟が落ち着かないと話せないの。仕方ないんだけどね」と伝えてくれたきょうだいいます